



2017年8月15日から17日にブルネイにて開催された「第14回 東南アジア測量 कांग्रेस(SEASC)」に当社は参加いたしました。SEASCは東南アジア諸国の測量及び地理空間情報関係者が集まり、最新技術やその応用について情報交換を行い、東南アジア諸国の相互発展を模索することを目的とした会議です。2016年度に同国で開催された「マルチGNSSアジアカンファレンス(MGA)」をきっかけに、当社は同国企業ソアテック社と同国の電子基準点(CORS)の活用に関する協議を進めておりますが、今回当社は、一般財団法人 衛星測位利用推進センター (SPAC)、株式会社 ジェノバとの共同で参加し、東南アジア諸国へ準天頂衛星システム(QZSS)を含めたGNSS測位の活用、及びその応用としてのMobile Mapping System(MMS)や高精度三次元点群の処理システムである「WingEarth」の紹介を行いましたところ、ブルネイ開発省大臣をはじめ多くの参加者に興味を示していただきました。

また、現地では実際にGNSSを利用した実証実験等を行い、SEASC終了後にビジネス・ミーティングを実施しました。石油産出に産業依存している同国では産業構造改革が現在推進され、多くの大型コンストラクション・プロジェクトが実施されると同時に、インフラのメンテナンス等の諸課題があります。そのため、当社が研究している技術活用に対する期待も大きく、ビジネス・ミーティングは多岐にわたり、CORS活用を中心とした議論を2日かけて行いました。

ブルネイの日本大使館を訪問した際には、日本の技術支援に関し、ブルネイ国王からも大きな期待を寄せられているとの話も伺い、日本の技術の東南アジア諸国での活用を引き続き検討していきたいと考えています。当社とソアテック社は、MMSやWingEarthの活用のみならず、同国のキャパシティビルディングも含めた継続的な協議を今後も行っていく予定です。

【SEASCおよびビジネス・ミーティングの様子】



東南アジア各国から300名を超える方々が参加。アットホームな感じの कांग्रेसでした。



今回の展示はソアテック、SPAC、ジェノバと4社共同の展示。インターンの学生の協力もあり多くの方に日本の技術を紹介できました。



実証実験で用意された車はBMWです。ためらいながらもアンテナを載せさせていただきました。



ビジネス・ミーティングは白熱し、時には立ち上がってディスカッションすることも。